

96	サンズコン<山豆根> Sophorae subprostrata	根・根茎	葉は非薬	Sophora subprostrata Chun et T. Chen Euchresta japonica Hook f. ex Regel (ニヤマトベ ラ)やMenispermum dauricum DCを山豆根と する場合もある。	Leguminosae マメ科	アカヤジノオウ	局外生規	matrine, oxymatrine, anagyrine	RTECS変異毒性 <i>Salmonella typhimurium</i> +S9 5mg/plate Mutation Res 97 matrineのLD50 i.p. rat 125mg/kg, mouse 150mg /kg, oxymatrine LD50 i.p. mouse 521mg/kg, anagyrine Reproductive Effector, T45 cattle TLD0 816mg/kg	A	毒性アルカロイドmatrine, oxymatrineが含まれて おり、また局外生規収載されている。
97	ジオウ<地黄> ①アカヤジノオウ ②カイクエイジノオウ	根、根		① <i>Rehmannia glutinosa</i> Libosch. var. <i>purpurea</i> Makino; ② <i>Rehmannia glutinosa</i> var. <i>hutchingsensis</i> Chao et Shih	Scrophulariaceae ゴマノハグサ科	アカヤジノオウ	局方 Com E		RTECS Mutagenとしての データのみ 小核テスト mouse 2g/kg	B	局方に収載されており、多岐の処方に使用される 重要な医薬品である。
98	シオン<紫菀>	根、および根茎		<i>Aster tataricus</i> L. fil.	Compositae キク科	シオン	局方生規 Com E		<i>A. albescens</i> extract 62mg/kg i.p. mouse	A	抗腫瘍活性を持つoyelic peptideを含む。また、同 属植物で劇薬相当の毒性をもつ種が知られてい る。
99	ジキタリス	葉		<i>Digitalis purpurea</i> L.	Scrophulariaceae ゴマノハグサ科	ジキタリス	局方 Com E	強心配糖体 digitoxin LD50 cat i.v. 0.691mg/kg; monoacetate 3.33mg/kg cat i.v. ジョウトキシシン、ジゴキシン 糖葉指定	RTECS人男性 i.v. TDLO 12ug/kg LDLO. 投与方法不 明. 29mg/kg (leaf), i.v. guinea pig LDLO 1.416mg/kg, oral mouse LDLO 2857 mg/kg (leaf extract)	Class 3	強い毒性を持つ強心配糖体を含む。
100	シキミ<檉>	実		<i>Illicium anisatum</i> L. (= <i>Illicium religiosum</i> S. et Z.)	Lauraceae クスノキ科 Illiciaceae シキミ科または Magnoliaceaeとい う考えもあり	ハナノキ	*	anisatin (sesquiterpene lactone)を含む。(LDLO oral mouse 1mg/kg)	TECS <i>I. anisatum</i> L. fruit extract: LD50 660mg/kg subcutaneous mouse, mouse i.v. 425mg/kg	A	猛毒であるanisatinを含む。
101	ジコト<地骨皮>	根皮	葉・葉は非 薬	<i>Lycium chinense</i> Miller	Solanaceae ナス科	クコ	局方第二道 補収種子症 局外生規		i.p. mouse LD50 >1g/kg	2b	ACE阻害活性を持つ降圧作用ペプチドを含む し、また局方に収載されている重要生薬である。
102	シコン<紫葳>	根		<i>Lithospermum erythrorhizon</i> Sieb. et Zucc, <i>Lithospermum officinale</i> L. var. <i>erythrorhizon</i> (S. et Z.) Hand.-Mazz.	Boraginaceae ムラサキ科	ムラサキ	局方		oral mouse LD50 >10g/kg, i.p. mouse 40mg/kg <i>L. calliosum</i> alkaloidal extract rat oral LD50 90mg/kg, oral mouse 20mg/kg	Alkanna linctoriaは Class 2c	局方に収載され、多岐の処方に使用される重要 な生薬である。

111	ショウリク<蘭産>	①根 ②根 ③根 ④根 実用種	ヤマゴボウ (<i>Cirsium dipacolepis</i>) の根は「非 医」	① <i>Phytolacca esculenta</i> Van Houtte ② <i>Phytolacca americana</i> L.	Phytolaccaceae ヤマゴボウ科	①ヤマゴボウ ②ヨウシュヤマゴボウ	①尾西薬 ②中国药典 収載	①Ictinia ②betanidin derivatives		①Phytaracosside B: 4.5 mg/kg (mouse, iv), phytaracosside E: 486 mg/kg (mouse, ip) ②エキス: LD50 65 mg/kg (rat, ip), phytaracosside B: 4.5 mg/kg (mouse, iv), phytaracosside E: 486 mg/kg (mouse, ip)	②Class 3	A	①遷性の強い phytaracosside B を含有するたも専 ら医薬品と考えらる。 ②エキスの LD50 値は劇薬相当であり、専ら医薬 品と考えらる。		
112	シンイ<辛夷>	①②花葉 ③花 ④花 ⑤花 ⑥花 ⑦花 ⑧花 ⑨花 ⑩花 ⑪花 ⑫花 ⑬花 ⑭花 ⑮花 ⑯花 ⑰花 ⑱花 ⑲花 ⑳花 ㉑花 ㉒花 ㉓花 ㉔花 ㉕花 ㉖花 ㉗花 ㉘花 ㉙花 ㉚花 ㉛花 ㉜花 ㉝花 ㉞花 ㉟花 ㊱花 ㊲花 ㊳花 ㊴花 ㊵花 ㊶花 ㊷花 ㊸花 ㊹花 ㊺花 ㊻花 ㊼花 ㊽花 ㊾花 ㊿花	①花葉 ②花 ③花 ④花 ⑤花 ⑥花 ⑦花 ⑧花 ⑨花 ⑩花 ⑪花 ⑫花 ⑬花 ⑭花 ⑮花 ⑯花 ⑰花 ⑱花 ⑲花 ⑳花 ㉑花 ㉒花 ㉓花 ㉔花 ㉕花 ㉖花 ㉗花 ㉘花 ㉙花 ㉚花 ㉛花 ㉜花 ㉝花 ㉞花 ㉟花 ㊱花 ㊲花 ㊳花 ㊴花 ㊵花 ㊶花 ㊷花 ㊸花 ㊹花 ㊺花 ㊻花 ㊼花 ㊽花 ㊾花 ㊿花	① <i>Magnolia kobus</i> DC. Desr. ② <i>Magnolia denudata</i> Desr. ③ <i>Magnolia salicifolia</i> (Sieb. Et Zucc.) ④ <i>Magnolia sprengeri</i> Pamp.	Magnolaceae モクレン科	①コブシ ②ハクモクレン ③タムシバ ④マダガスカ レンゲ	局方	①②Salicifoline (phenylethylamine) ③Magnosprengine (phenylethylamine)			①コブシ ②ハクモクレン ③タムシバ ④マダガスカ レンゲ	B	B	①コブシ ②ハクモクレン ③タムシバ ④マダガスカ レンゲ	①コブシ ②ハクモクレン ③タムシバ ④マダガスカ レンゲ
113	ジンコウ<沈香>	材、樹脂		① <i>Aquilaria agallocha</i> Roxb ② <i>Aquilaria sinensis</i> (Lour.) Gilg.	Thymelaeaceae ジンコウ科	ジンコウ	○漢方処方				B	B	①コブシ ②ハクモクレン ③タムシバ ④マダガスカ レンゲ	①コブシ ②ハクモクレン ③タムシバ ④マダガスカ レンゲ	
114	スイサイ<睡菜>	葉または全草		<i>Menyanthes trifoliata</i> L.	Gentianaceae リンドウ科	ミンガシ	Com E	gentianine, gentianidine, gentiabinetone (pyridine type)			Class 2d	A	①コブシ ②ハクモクレン ③タムシバ ④マダガスカ レンゲ	①コブシ ②ハクモクレン ③タムシバ ④マダガスカ レンゲ	
115	スカルクキヤブ	根	根以外は「非 医」	<i>Scutellaria laterifolia</i> L.	Labiatae シソ科	スクチリア・ラテ リア	*				Class 1	C	①コブシ ②ハクモクレン ③タムシバ ④マダガスカ レンゲ	①コブシ ②ハクモクレン ③タムシバ ④マダガスカ レンゲ	
116	スズラン<新蘭>	根を含む全草	根と根茎に毒 成分が多い	<i>Convallaria majalis</i> L.	Liliaceae ユリ科	ドイツスズラン	Com E	2-azetidinecarboxylic acid		エキス: LDLo 208 ug/kg (guinea pig, iv), convallatoxin: LD50 (cat, ip) 0.2 mg/kgおよびア ルカロイド成分を含有しているため安全性に不安 な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えらる。	Class 3	A	①コブシ ②ハクモクレン ③タムシバ ④マダガスカ レンゲ	①コブシ ②ハクモクレン ③タムシバ ④マダガスカ レンゲ	
117	セイヨウクサノコ	葉、花枝 葉、全草		<i>Artemisia annua</i> L.	Compositae キク科	クソニンジン	中国药典	6-amino-7,8-dihydro-2- hydroxypurine		①コブシ ②ハクモクレン ③タムシバ ④マダガスカ レンゲ	Class 2b	A	①コブシ ②ハクモクレン ③タムシバ ④マダガスカ レンゲ	①コブシ ②ハクモクレン ③タムシバ ④マダガスカ レンゲ	
118	セイヨウサンザシ	葉	果実は「非 医」	<i>Crataegus oxyacantha</i> L. em. Jacq.	Rosaceae バラ科	セイヨウサンザシ	Com E			エキス: LD50 250 mg/kg (rat, ip)	Class 1	E	①コブシ ②ハクモクレン ③タムシバ ④マダガスカ レンゲ	①コブシ ②ハクモクレン ③タムシバ ④マダガスカ レンゲ	
119	セイヨウトチノキ	種子	樹皮・葉・花・ 葉は「非医」、 トチノキの種 子は「非医」	<i>Asclepias hippocastanum</i> L.	Hippocastanaceae トチノキ科	セイヨウトチノキ	Com E	<i>Asclepias hippocastanum</i> antimicrobial protein 1, dicumaroylspermidine, dicaffeoylspermidine		extract: LD50 990 mg/kg (po, mouse), 2150 mg/kg (po, rat), 1530 mg/kg (po, Rabbit), 130 mg/kg (po, dog)	B	B	①コブシ ②ハクモクレン ③タムシバ ④マダガスカ レンゲ	①コブシ ②ハクモクレン ③タムシバ ④マダガスカ レンゲ	

120	セイヨウヨウヤドリギ	ツウキセイイ、ヤドリギ、mistletoe herb	枝葉性・茎・葉、葉・葉、葉芽生、<ツウキセイイ>	<i>Viscum album</i> L.	Viscaceae ヤドリギ科	セイヨウヤドリギ	Com E	viscotoxin (peptide), viscumamide, kynuretinine, 2,6-diamino-5-hydroxyhexanoic acid	エキス、LD50 250 mg/kg (mouse, ip)	Class 2b	A	アルカロイド成分並びに心筋系に対する毒性を示す viscotoxin を含有し、Botanical Safety Handbook において様々な食品が警告されており、医薬品としての使用制限があることから安全性に充分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。
121	セイイ<石菖>	ヒトツバ	全草	<i>Pyrrhosia lingua</i> Farw.	Polypodiaceae クラボソ科	ヒトツバ	*				E	わが国における使用実績はほとんどない、毒性も低く、食薬区分の見直し対象に及び得ると考えられる。
122	セキサン<石菖>	セガンバナ/マシジュンヤギ	根茎	<i>Lycoris radiata</i> Herb.	Amaryllidaceae ヒガンバナ科	セガンバナマン ジュンヤギ	○	hippeastrine, lycorine (LD50 = 765 mg/kg bw, mouse, oral), lycoridine, lycorine (LD50 = 10.7 g/kg bw, mouse, oral, 145 mg/kg bw, mouse, subcutaneous), pretazetine (LD50 = 47 mg/kg bw, rat, i.v.), homolycorine, lycoramine (LD20 = 1.01 mg/kg bw, rat, i.p.), azetidine (LD50 = 320 mg/kg bw, mouse, i.p.), galanthamine ((LD50 of hydrobromide = 18.7 mg/kg bw, mouse, oral; LD50 = 10 mg/kg bw, mouse, i.p.)			A	含量は低いものの、毒薬相当の lycoramine, galanthamine やその他のヒガンバナアルカロイドを含む。
123	セキヨウコン<石菖根>	セキヨウ	根茎	<i>Acorus gramineus</i> Soland.	Araceae サトイモ科	セキヨウ	局外生規		Extract LD50 = 540 g/kg bw (mouse, oral).	Class 2b, 3	A	薬が毒性が指摘されているが、saasoneを含む、含まれていないが、カナダでは食品への使用を認められている。
124	セキナンヨク<石菖葉>	オオカナメモチ/シヤクナガ	葉	① <i>Phytolacca serotina</i> Lindl. ② <i>Rhododendron</i> 属	① Rosaceae バラ科 ② Ericaceae ツツジ科	①オオカナメモチ ②シヤクナガ	○	grayanotoxin I (LD50 = 1.31 mg/kg bw, mouse, i.p.)			A	オオカナメモチとシヤクナガの仲間が使用されるが、シヤクナガの仲間で使用される植物種のうち2種に毒性の強い grayanotoxin I の含有が知られている。
125	セツコク<石菖>	ホンセツコク	茎	<i>Dendrobium officinale</i> K. Kimura et Migo et al.	Orchidaceae ラン科	ホンセツコクなど	○	dendrobine (LDLo = 17 mg/kg bw, rabbit, i.v.)		Class I	A	CP2004に収載され、日本でも使用実績がある。大量に服用すると毒性を示すアルカロイド、dendrobine を含有するため、専ら医薬品としておくことが適当である。
126	セネガ	ヒロハセネガ	根	① <i>Polygala senega</i> L. ② <i>P. senega</i> L. var. <i>latifolia</i> Torrey et Gray	Polygalaceae ヒメハギ科	①セネガ ②ヒロハセネガ	局方 Com E			Class 2b, 2d	A	局方収載の重要な医薬品であり、また、長期間服用すると腎臓に炎症を起すことが知られているため、食用には向かず、専ら医薬品としておくべきである。
127	センキョク<川芎>	根茎	根茎	<i>Cnidium officinale</i> Makino	Umbelliferae セリ科	センキョク	局方				B	薬性は知られていないが、局方に収載される重要な生薬であり、また多岐の処方に使用されている。
128	ゼンコ<附子>	根	根	① <i>Peucedanum praerapiforme</i> Dunn ② <i>Angelica decursiva</i> Franchet et Savatier	Umbelliferae セリ科	②ノダク	局外生規				B	薬性は知られていないが、局外生規に収載され、漢方210処方中にも配合される重要な生薬である。
129	センソク<川芎>	コウホネ	根茎	<i>Niphar japonicum</i> DC.	Nymphaeaceae スイレン科	コウホネ(カワホネ)	局方	nupharidine, deoxynupharidine, nupharamine, dehydratedoxynupharidine, nupharine, anhydronupharine			A	中枢麻痺作用のある deoxynupharidine を含む。

130	センダウ<海葱>	根	センソウ<仙草> (非薬)	①Rubia akane Nakai ②R. cordifolia L.	Rubiaceae アカネ科	①アカネ ②アカミノアカネ	○				Extract of <i>R. cordifolia</i> L.; LD50 > 1 g/kg bw (mouse, oral)	A	発がん性があるために食品添加物としての使用が禁止されたセイヨウアカネ <i>R. tinctorum</i> の同属植物である。lucidin primeverosideに変異異性が知られており、その他にもセイヨウアカネと共通する成分が多いことから、食品として使用されるべきでない。
131	センダウリムソウ	全草		<i>Erythraea centaurium</i> Pers. <i>Centaurium erythraea</i> Raf.	Gentianaceae リンドウ科	ヘニハナセンブリ	Com E				Class 1	E	日本では医薬品としての使用実態がない。 Botanical Safety HandbookでもClass 1であり、問題のある化合物は知られていない。
132	センダン<栝楼>	果実・樹皮		①Melia azadirach L. = <i>M. azadirach</i> L. var. <i>japonica</i> Makino ② <i>M. toosendan</i> Sieb. et Zucc.	Meliaceae センダン科	①センダン ②トウセンダン	○				①bark extract of <i>M. azadirach</i> : LD50 = 250 mg/kg bw (mouse, i.p.) ②extract of <i>M. toosendan</i> : LD50 = 221 mg/kg bw (mouse, oral), LDLo = 20 mg/kg bw (human child, oral)	A	センダンとして使用される <i>Melia toosendan</i> の抽出物が腸口致毒で劇薬相当の毒性を示す。本草のセンダンである <i>M. azadirach</i> 果実に含有される imelatoxinは経口投与で劇薬相当の毒性を示す。
133	センナ	果実・小葉・葉 附葉軸	星は〔非薬〕	① <i>Cassia angustifolia</i> Vahl ② <i>C. acutifolia</i> Delile	Leguminosae マメ科	①チンネベリ・センナ ②アレキサンドリ ア・センナ	局方 Com E				薬: Class 2b, 2c; 果実: Class 2b, 2c, 2d	A	腸内収縮の重要な生薬であり、また、強い瀉下作用と軟便作用があるため、専ら医薬品としておくべきである。
134	センブクカ<桜楓花>	花		<i>Inula britannica</i> L. subsp. <i>japonica</i> Kitam.	Compositae キク科	オグルマ	x				Class 1	D	わが国における使用実態は少ない、有毒成分の含有も知られていないが、データ不足である。
135	センブリ	全草		<i>Swertia japonica</i> Makino	Gentianaceae リンドウ科	センブリ	局方					B	OTCにセンブリ散があるなど、わが国でよく使用される重要な生薬であるため専ら医薬品にしておくことが望ましいが、毒性の高い成分の含有は知られていない。
136	ソウカ<菘菜>	果実	果実・葉は非薬	<i>Anonium isooko</i> CREVOST et LEMAIRE	Zingiberaceae ショウガ科		○				Class 1	C	含有するアルカロイドの安全性について引き続き調べなければならない。
137	ソウシシ<想馬子>	種子		<i>Abrus precatorius</i> , L.	Leguminosae マメ科	トウアズキ	x					A	猛毒なタンパクアミンを含む。
138	ソウジン<蒼耳子>	果実		<i>Xanthium strumarium</i> L.	Compositae キク科	オナモミ	△中国で生薬として使用					A	劇薬相当のcarboxyatractylosideを含む。
139	ソウジュウ<蒼朮>	根茎		<i>Atractylodes lancea</i> De Candolle, <i>A. chinensis</i> , Knudtzmi	Compositae キク科	ホンバオケラ	局方				Class 1	B	両方に収録され、210処方中の57処方に使用されている重要生薬である。
140	ソウジュヨウ<草蓍>	茎		<i>Orobanchae coarulescens</i> , <i>Boschniakia rossica</i> B. Fedtsch.	Orobanchaceae ハマウツボ科	ハマウツボ	x					E	含まれるとされるアルカロイドは、アーティファクトと考えられ、それ以外の成分も、特に危険なものは報告されていない。(オニクも同様と考えられる)
141	ソウハク<桑白皮>	根皮	葉、花、果(雄合果)は非薬	<i>Morus alba</i> L.	Moraceae クワ科	マゴウ	局方					B	局方生薬であり各種アルカロイドを含む。

153	タラココビ	タラノキ、ウトモド キ、タラコビ	根皮(タラ根皮、 忍木皮<ウボ クヒ>)、樹皮	葉、芽は「非 薬」「非医 区」	<i>Aralia elata</i> (Miq.) Seem.	Araliaceae ウコギ科	タラノキ	局外生規	2-hydroxy-3- (3,4-dihydroxyphenyl)propa namide, salvianilamide		total aralosides: LD50 1,171 mg/kg (mouse oral), LD50 58.7 mg/kg (mouse ip)	2b	E	含有成分から薬薬区分の見直し対象に成り得ると 考えられる。
154	タンジン<科参>		根	葉は「非医 区」	<i>Salvia miltiorrhiza</i> Bunge	Lamiaceae シソ科	タンジン	○ 中国新典		aqueous extract: TDLo 350 g/kg (rat oral)	Class 1	B	毒性データは少ないが、アルカロイド等を含有し ており、また中薬処方によく配合されており、安全 性に十分な配慮が必要である。	
155	チクジヨ<竹茹>	①ハチク、クレタ ケ、カラダケ、液 竹、葉竹 ②真竹、苦竹	擘の内層		① <i>Phyllostachys nigra</i> Munro var. <i>kenonis</i> ② <i>Phyllostachys</i> <i>bambusoides</i> Sieb. et Zucc.	Gramineae イネ科	①ハチク ②マダケ	①② 局外生規				B	局外生規収載生薬で漢方処方にも配合されてい る。	
156	チクセツニンジン <竹節人參>	トチハニンジン	根茎		<i>Panax japonicus</i> C. A. Meyer	Araliaceae ウコギ科	トチハニンジン	局方		chikusetsusaponin V: LD50 656mg/kg (mouse, ip), LD50 278mg/kg (mouse, iv) chikusetsusaponin IV: LD50 548mg/kg (mouse ip), LD50 343mg/kg (mouse, iv)		B	局方収載生薬で日本産の重要生薬である。	
157	チモ<知母>	ハナスグ	根茎		<i>Anemarrhena</i> <i>asphodeloides</i> Bunge	Liliaceae ユリ科	ハナスグ	局方		rhizoma water extract, methanol fraction: TDLo 90 mg/kg (mouse oral)	Class 1	B	局方収載で210処方中13処方に配合される重要 生薬である。	
158	チュ<地榆>	ワレモコウ	根、根茎		<i>Sanguisorba officinalis</i> L.	Rosaceae バラ科	ワレモコウ(長木 香、我木香、ウ マスイカ、タンゴ ハナ)			Garden burnt: TDLo 2,744 g/kg (mouse oral)		E	医薬品としての使用実績が乏しく、含有成分等か らも薬薬区分の見直し対象と成り得ると考えられ る。	
159	チヨウセンアサガオ風 <吹上草>	マンダラダ、 キチガイナスビ、 Angel's trumpet	種子、葉、花		<i>Datura metel</i> L., <i>D. arborea</i> L., <i>D. stramonium</i> L., <i>D. stramonium</i> L. var. <i>chalybea</i> Koch	Solanaceae ナス科	チヨウセンアサガ オ風としてチヨウ センアサガオ、コ ダチチヨウセンア サガオ、シロハチ チヨウセンアサガ オ、ヨウジュチヨウ センアサガオ	○ 中国新典		エネス: LD50 1275 mg/kg (mouse, po). atropine sulfate monohydrate: LD50 723 mg/kg (mouse, sc), LD50 56 mg/kg (mouse, iv) atropine hydrobromide: LD50 240 mg/kg (mouse, ip), atropine sulfate (1:1): LD50 78 mg/kg (mouse, iv) (-) hyoscyamine: LD50 95 mg/kg (mouse, iv), (+) scopolamine: LD50 154 mg/kg (mouse, iv)		A	薬業指定のアトロピンが配合されている。	
160	チヨウコウ <射干>	①射干、華射干 ②大葉射干	根、根茎、とげ	葉は「非医 区」	① <i>Uncaria</i> <i>rhynchophylla</i> Miquel ② <i>Uncaria sinensis</i> (Oliv.) Havil. ③ <i>Uncaria macrophylla</i> Wall.	Rubiaceae アカネ科	①カギカズラ ②ウンカリア・ホン シンス ③ウンカリア・マク ロワイフ	①②局方 14項第一追 補 ③局方	①rhynchophylline, hinutine, dihydrocorynathine, rhynchophylline ②rhynchophylline, mitraphyllin acid, isomitraphyllin acid, isorhynchophyllin acid, uncarine ③corynoxine A, B		A	局方収載生薬で漢方処方にも配合されており、ま たアルカロイド成分も含有しており安全性に充分 な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。		

161	テウカイ<猪苓>		菌核		<i>Polyporus umbellatus</i> Fries (= <i>Cristofora umbellata</i> Pilat)	Polyporaceae サルノコシカケ科	テウカイマイタケ	同方				Class I	B	同方収載生薬で多くの漢方処方にも配合されており、重要生薬である。
162	テンナンショウ <天南星>		塊茎		① <i>Arisaema heterophyllum</i> Blume, A. <i>erubescens</i> Schott ② <i>Arisaema consanguineum</i> Schott ③ <i>Arisaema limbatum</i> Nakai et F. Maekawa ④ <i>Arisaema monophyllum</i> Nakai ⑤ <i>Arisaema serratum</i> Schott (= <i>A. japonica</i> Blume) ⑥ <i>Arisaema urashima</i> Hara (= <i>A. thumbergii</i> Bl. var. <i>urashima</i> Makino)	Araceae サトイモ科	①マイズレンテンナンショウ ②アリセマ・コサグミネカム ③ミミカタテンナンショウ ④ヒトシバテンナンショウ ⑤ワムシグサ(鱗蕪、鱗蛇蕪)、ヘビノダイハチ、ヤカゴニヤク、ムラサキマムシグサ ⑥ウラシマツク(漸島草)	高外生規				⑤ Class 2b <i>A. japonicum</i> として	A	植物を混集すると中毒症状を起し、高外生規収載生薬で漢方処方にも配合されており専ら医薬品と考えられる。
163	テンマ<天麻>		塊茎		<i>Gastrodia elata</i> Blume	Orchidaceae ラン科	オニノヤガラ(塊茎)、スズビノアザミ	同方				Class I	B	アルカロイド等を含み、同方収載生薬で漢方処方にも配合されている。
164	テンモンドウ <天門冬>		根	種子・葉・花は「非医」	<i>Asparagus cochinchinensis</i> Merrill	Liliaceae ユリ科	クサスキカズラ	同方 14局 第一追補				Class I	B	同方収載生薬で漢方処方にも配合されている。
165	トウガン<冬瓜子>		種子	果実は「非医」	<i>Benincasa cerifera</i> Savi, B. <i>cerifera</i> Savi forma <i>emarginata</i> K. Kimura et Sugiyama	Cucurbitaceae ウリ科	トウガン(冬瓜)、カモウリ、トウガン	高外生規、 同方15局収 載予定				Class I	B	アルカロイド等を含み、高外生規収載、同方収載予定生薬で漢方処方にも配合されている。
166	トウキ<当帰>		根		① <i>Angelica acutiloba</i> Kitagawa ② <i>A. acutiloba</i> Kitagawa var. <i>supravermis</i> Hikino ③ <i>A. sinensis</i> (Oliv.) Diels ④ <i>A. ggar</i> Nakai	Umbelliferae セリ科	①トウキ ②ボツカイトウキ ③カヲトウキ ④オニノダケ	同方(①②のみ)			Class 2b	A	同方に収載される重要な生薬であるが、子宮に對する収縮作用が報告されており、使用には注意が必要である。また、カナダでは医薬品以外への使用が禁止されている。	
167	トウジン<党参>		根		① <i>Codonopsis pilosula</i> (Franch.) Nannf. ② <i>C. tangshen</i> Oliv.	Campanulaceae キキョウ科	①ヒカガハツルニンジン ②トウジン	*				Class I	C	毒性が不明のアルカロイドが含まれるので、調製が必要である。
168	トウシンヅク<灯心草>		全草		<i>Juncus effusus</i> L. var. <i>decipiens</i> Buchem.	Juncaceae イグサ科	イ、イグサ	○				Class I	C	フェナントレン誘導体が含まれる。フェナントレン誘導体には変異毒性が知られているものがあるため、調製が必要である。
169	トウソクキンバイ		全草		<i>Potenilla anserina</i> L. = <i>Argentina anserina</i> (L.) Rydb.	Rosaceae バラ科	エノソクキンバイ、ヨウシキョウキンバイ	* (欧州では ○ Com E)				Class I	A	活性成分は不明であるが、子宮の痙攣を強め、収縮回帰をせよめる作用が知られており、安全性に配慮が必要である。また、ドイツで医薬品として使用されている。なお、和名はエノソクキンバイにすべきではないかと思われる。
170	トウニン<桃仁>		種子	葉・花は「非医」	① <i>Prunus persica</i> Batsch. (= <i>P. vulgaris</i> Mill.) ② <i>P. persica</i> Batsch. var. <i>davidiana</i> Maximowicz (= <i>P. davidiana</i> (Carr.) Franch.)	Rosaceae バラ科	①モモ②ノモモ	同方				Class 2b, 3	A	青酸配糖体のamygdalinを含み、Botanical Safety HandbookでClass 2b, 3と評議されているため、安全性に配慮が必要である。

178	トリカブト属		樹脂	サンヨウブシ <i>A. saponaria</i> は狭く	<i>Aconitum</i>	Ranunculaceae キンポウゲ科	生薬名 附子 ハナトリカブト	局方 14回第二追 補記載予定	aconitine, mesaconitine, jescosonitine, pseudosaconitine 等 アルカロイドを0.4-1%含むマイナー成分として、 hygemanine (demethylcochlorine), conyisine chloride			Aconite (drug) oral human A LDL0.0029mg/kg. ラット経注 LD50: 80µg/kg. マウス経口 LD50: 1mg/kg	Class 3	A	毒薬(毒成分を含む、また医薬品原料としても重要である。
179	ナンテンジツ <南天菜>		果実		① <i>Nandina domestica</i> Thunberg forma <i>leucocarpa</i> Makino ② <i>N. domestica</i> Thunberg	Berberidaceae スズキ科	シロニンナンテン(シロナンテン)、ナンテン	局外生規	domestine 知覚神経、 運動神経を 麻痺させ、中 枢に対し麻 酔的な作用			LD50 oral mouse 26.5 g/kg (stem extract) domestine i.v. rat TDLO 0.3 mg/kg m-OH mandemonitrile oral mouse LD50 25.4mg/kg 27.5mg/kg. human p-Glucosyloxymandelonitrile (Nandinin (Cyanogenic glycoside)		A	中枢作用を有するアルカロイドdomestineや p-glucosidaseの関与なしに青酸を発生する青酸 化糖体を含む。
180	ナンバンゲ<南蛮毛>		花柱、柱頭	種子油・澱粉 は非医	<i>Zea mays</i> L.	Gramineae イネ科	生薬名 なんば の毛、玉蜀黍	x 民間薬として は使用				RTECS oral rat TDLO 6.3µg (silk en styles of com extract)	Class1	E	経口のTDLO6.3µg/kgであり、また問題となる成分 も知られていない。(別添にナンバンゲ毛を入れる 必要がある)
181	ニガキ<苦木>		木部(樹皮を除く)		<i>Picrasma quasistoides</i> Bennet	Simarubaceae ニガキ科	ニガキ	局方	アルカロイド-nigakinone, methylnigakinone, p- carbolin誘導体			RTECS p. javanica BL. mouse i.p. LD50 > 1g/kg	P. excelsa Class2b	A	アルカロイドを含有しており、また局方取載生薬で 安全性に配慮が必要である。
182	ニクジュウヨウ <肉苁蓉>		肉質莖		① <i>Cistanche salsa</i> , Benth et Hook, f. ② <i>Boschniakia rossica</i> B. Fedtsch. et Pterom= <i>B. glabra</i> C.A.Meyer	Orbanchaceae ハマウツボ科		Com E	Monoterpene pyridine alkaloids (antifetでは?) boschniakine, Physicochemistry (1972), 11(10), 3082-3. Tetrahedron (1967), 23(12), 4635-52					E	含まれるとされるアルカロイドは、アネチン(アクト)と 考えられ、それ以外の成分は、特に危険なものとは 報告されていない。(ツクジュウヨウも同様と考えら れる)
183	ニチニチソウ		全草		<i>Convolvulus roseus</i> (L.) G. Don	Apocynaceae キョウチクトウ科	ニチニチソウ	局方	alstonine, reserpine, vinblastine, vincristine, yohimbine and yohimbinoid and atropinoid base (anticholinergic neurotoxic alkaloids) Toxic Plants of North America 977-78 インド-アルカロイド			Class3	A	毒薬相当の要指要素成分を含む。	
184	ニクウコク<乳香>		全木		<i>Boswellia carterii</i> Birdw.	Burseraceae カンラン科	カンニクウコク ジュ	Com E				RTECS i.p. rata LD50 85 mg/kg	Class1	A	毒薬相当の毒性データがあり、安全性に配慮が 必要である。
185	ニョテイ		種子・果実		① <i>Licidium Aiton</i> ② <i>Ligustrum japonicum</i> Thunb.	Oleaceae モクセイ科	ネズミモチ、トウネ ズミモチ	Com E ①Com E 和漢薬				L. licidium LD50 > 1g/kg i.p. mouse	①Class1	E	LD50 > 1g/kg i.p. mouse であり、また安全性に問 題ある成分も含まれているという報告はないが、 具体的に食品と判断する材料もない。

186	バイケイソウ属		根茎または全草	①梅萼草、根茎は毛穂(リロ)とも呼ばれる。②③ European White Hellebore, Langwort ④Black False Hellebore ⑤毛穂草、根茎は毛穂(モウスイロ)とも呼ばれる。⑥山梅草、根茎は毛穂(リロ)とも呼ばれる。	①Veratrum grandiflorum Loesen. F. (= V. album L. var. grandiflorum Maxim) ②Veratrum album L. ③Veratrum maackii Regel var. japonicum (Baker) T. Shimizu ④Veratrum nigrum L. ⑤Veratrum maackii Regel var. maackii (Regal) Maxim.	Liliaceae ユリ科	①バイケイソウ ②ペトアルム・ア ③シユロソウ、株 ④クワソウ ⑤ナガシユロソウ、 ホソバシユロソウ、 長葉陰翳草	x 民間薬として は使用	①Veratramine, veratrenone, hakurodine, baikenine, baikedine, housukimidine, shinomonine, veratlorizine ②jervine, jervinone, pseudojervine, veratobasine, rubijervine, rubiverine, raunticine, veratramine ③未詳 ④jervine, pseudojervine, veratramine, veramine, verazine, rubijervine, germinine, gormetine ⑤maackinine, 20-epiverazine ⑥Veratramine, jervine, rubijervine, angeroylzygadenine, 2-methylbutyrylzygadenine	①Veratramine LD50 4.5 mg/kg (mouse sc) ②jervine LD50 29 mg/kg (mouse sc), 9.3 mg/kg (mouse iv) veratramine LD50 4.5 mg/kg (mouse sc) ③root extract: TDLo 30ug/kg (rat intravenous), germinine: LD50 10 mg/kg (mouse ip), veratramine: LD50 4.5 mg/kg (mouse sc) ④extract: LD50 290 ug/kg (mouse intravenous) root extract: LD50 140 ug/kg (mouse intravenous)	class 3 (同属植物 F. viride Atou = American hellebore)	A	毒性の強いステロイド系アルカロイド成分を含有しており安全性に充分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。
187	ハイソウ	オミナエシ	根	女郎花、アヲバナ	<i>Patrinia scabiosaefolia</i> Fisch.	Valerianaceae オミナエシ科	オミナエシ	x 民間薬として は使用	Complex injection: LD50 213g/kg (mouse ip), 123g/kg (mouse iv)		E	アルカロイド等も含有せず、問題となるような毒性データも存在しないことから食薬区分の見直し対象と判断される。	
188	バイモク貝母		鱗茎	鱗茎は貝母(バイモク)と呼ばれる	<i>Fritillaria verticillata</i> Willdenow var. thunbergii Baker	Liliaceae ユリ科	アマガサユリ	14高算一追 補収載	同属植物 F. ussuriensis: LD50 14.8 mg/kg (mouse, ip), 84.2 mg/kg (mouse, iv)	class 2b F. cirrhosa F. thunbergii	A	同方取製生薬で漢方処方にも配合されており、アルカロイド成分も含有し、また同属植物のエキースは劇薬相当の毒性を有していることから安全性に充分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。	
189	ハクジンソウ<柏子仁>		種子	種子は柏子仁(ハクジンソウ)と呼ばれる	<i>Biota orientalis</i> (L.) Endl. (= <i>Thuja orientalis</i> L.)	Cupressaceae ヒノキ科	コノチガシウ (児手柏)	x 民間薬として は使用	(-)-fenchone: LD50 6150 mg/kg (rat oral), Thuja leaf oil: LD50 830 mg/kg (rat, po)	Class I	E	アルカロイド等の問題となる成分は含有しておらず、また直接的な毒性データも存在しないことから食薬区分の見直し対象と判断される。	
190	ハクセンソウ<白鮮皮>		根皮	根皮は白鮮皮(ハクセンソウ)と呼ばれる	<i>Dicranum dasycarpum</i> Turcz.	Rubaceae ミカン科	ハクセン	中国新典収 載	dicramine, γ-fagarine; mutation in <i>Salmonella typhimurium</i> 1 μg/plate		A	変異原性を有するフラノクマリン-アルカロイドを多量に含有しているため、安全性に充分な配慮が必要であり専ら医薬品と判断される。	
191	ハクタクオウ<白頭翁>		葉および茎	茎は白頭翁(ハクタクオウ)と呼ばれる	<i>Pulsatilla chinensis</i> (Bge.) Regel	Ranunculaceae キンポウゲ科	ヒロハオキナグサ	中国新典収 載	同属植物 <i>P. alpina</i> subsp. <i>epifolia</i> (scop.) Nyman, aqueous extract LD50 1.92 g/kg (mouse, ip)		A	細胞毒性活性を示す成分を、多種、多量に含有しており、安全性に充分な配慮が必要であり専ら医薬品と判断される。	
192	ハクタクスギ	クワンソウ	樹皮と葉	心材は「非 医」	<i>Pseudotsuga chenii</i>	Taxodiaceae スギ科	ハクタクスギ	x	paclitaxel: LD50 128 mg/kg (mouse ip), 12 mg/kg (mouse iv)		A	paclitaxelを含有するとの報告があり、専ら医薬品と考えられる。	
193	ハクモントウ <菝葜冬>	リュウノヒゲ	根の肥大部	根の肥大部は菝葜冬(ハクモントウ)と呼ばれる	<i>Ophiopogon japonicus</i> Ker-Gawler	Liliaceae ユリ科	ジャノヒゲ	高方	root extract: LD50 20.6 g/kg (mouse, ip)	Class I	B	同方取製生薬で漢方処方にも配合されており、重要な生薬であることから専ら医薬品と判断される。	

194	ハゲキテン<巴載天>		根	根は巴載天(ハゲキテン)と略称される	<i>Morinda officinalis</i> How.	Rubiaceae アカ木科	モリンダ・オフインシ ナリス	中国薬典収 載				同属植物 <i>M. lucida</i> Benth. extract LD50 > 500 mg/kg (rat, ip) 同属植物 <i>M. citrifolia</i> L., extract LD50 7500 mg/kg (mouse, ip) 同属植物 <i>M. umbellata</i> L., extract LD50 > 1 g/kg (mouse, ip)	Class 1	A	アルカロイド等は含有されていないが、強い収縮 原性物質であるアントラキノン類を含有しており安 全性に十分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考 えられる。
195	ハンシドコロ属	ロート根	根		<i>Scopolia japonica</i> Maxim	Solanaceae ナス科	ハンシドコロ	周方 Com E				エキス: LD50 1275 mg/kg (mouse, po), atropine sulfate monohydrate: LD50 723 mg/kg (mouse, sc), LD50 56 mg/kg (mouse, iv) atropine hydrochloride: LD50 240 mg/kg (mouse, ip), atropine sulfate (1:1): LD50 78 mg/kg (mouse, iv) (-) hyoscyamine: LD50 95 mg/kg (mouse, iv), (+) scopolamine: LD50 154 mg/kg (mouse, iv)	Class 3 (<i>Scopolia</i> <i>carniolica</i> Jacq.)	A	制薬相当のアルカロイド (hyoscyamine) が含有さ れており専ら医薬品と考えられる。
196	ハズ		種子		<i>Croton tiglium</i> L.	Euphorbiaceae トウダイグサ科	ハズ	x				Croton oil: LD50 = 60 mg/kg (frog, i.p.); LD70 = 3.74 mg/kg (mouse, subcutaneous)		A	毒薬相当の毒性があり、発ガンプロモーター作用 を伴ったトルポールエステルを含む。
197	ハマリスヨク	witch hazel	葉		<i>Hamamelis virginiana</i> L.	Hamamelidaceae マンサク科	アメリカマンサク	Com E				Leaf extract: LD50 4510mg/kg (mouse oral)		E	アルカロイド等の問題となる成分は含有しておら ず、またBSH, Com Eにおいても安全に問題と なるような記載がないことから毒薬区分の見直し 対象となり得ると考えられる。
198	ハリエラ属	ハリエラ/ ハレイラ根	樹皮・根		<i>Chondrodendron</i> spp. または <i>Chondrodendron</i> spp.	Menispermaceae ツツリフシ科		周方 薬品の原料				Extract of <i>Chondrodendron</i> <i>limacifolium</i> : LD50 = 2 g/kg (mouse, subcutaneous)		A	毒薬であり指定医薬品である(+)-tubocurarineを 含むため、使用には注意を要する。
199	ハルマラ		種子		<i>Pegonum harmala</i> L.	Zygophyllaceae ハマビシ科		x				Seed extract: LD50 = 450 mg/kg (mouse, route unreported); Extract: LD50 > 500 mg/kg (mouse, i.p.)		A	向精神薬の類似化合物であるハルマリンを含む。
200	ハンゲ<半夏>	カラスビシヤク	塊茎		<i>Pinelia ternata</i> (Thunb.) Breit.	Araceae サトイモ科	カラスビシヤク	周方					Class 2b, 2d	A	制薬・要指示医薬品・覚せい剤原料である ephedrineを含む。
201	ヒマン油	トクゴマヒマ	種子油		<i>Ricinus communis</i> L.	Euphorbiaceae トウダイグサ科	ヒマ	周方				Reproductive data of seed extract: TDLo = 400 mg/kg (rabbit, intramuscular); Extract: LD50 = 3g/kg (mouse, oral); LD50 = 340 mg/kg (mouse, i.p.)	Class 2b, 2d	A	原料の種子には毒薬相当のタンパク質(ricin)と同じ く毒薬相当のアルカロイド(ricinine)が含まれ、ヒマン 油への混入の可能性がある。
202	ビヤクン<白芷>	ヨロイグサ	根		<i>Angelica dahurica</i> Benth. et Hook.	Umbelliferae セリ科	ヨロイグサ	周方					Class 1	B	周方に収載される重要な生薬である。
203	ビヤクジュ<白朮>	オオバナオケラ/ オケラ	根茎		① <i>Atractylodes ovata</i> DC (= <i>A. macrocephala</i> Koidz.) ② <i>A. japonica</i> Koidz. ex Kitam.	Compositae キク科	①オオバナオケラ ②オケラ	周方					Class 1 (A, <i>macrocep</i> <i>Aala</i> Koidz.)	B	周方に収載されており、わが国では非薬に重なる 生薬であるため専ら医薬品としておくことが望まし い。

204	ビヤクダム<白檀>	心材・油		<i>Santalum album</i> L.	Santalaceae ビヤクダム科	ビヤクダム、 サンダルウッド	Com E			Sandilwood oil: LD50 = 5580 mg/kg (rat, oral)	Class 2d	A	副作用としての吐き気や胃痛の症状に対する注意が知られているため、使用には注意が必要である。
205	ビヤクダム<百部>	肥大根		① <i>Stemona japonica</i> (Blume) Miq. ② <i>S. tuberosa</i> Lour. ③ <i>S. sessilifolia</i> (Miq.) Miq.	Stemonaceae ビヤクダム科	①ツルビヤクダム (ビヤクダム) ②タマビヤクダム ③タチビヤクダム	*		Stemona alkaloids	Crude extract of <i>S. japonica</i> : TDLo = 20g/kg (mouse, subcutaneous)	A	A	スズモナアルカロイドが含まれており、殺虫薬として用いられるものであるため、安全性に十分な配慮が必要である。
206	ヒユウカトウキ	根		<i>Angelica furcigata</i> Kitagawa	Umbelliferae セリ科	本種は、当帰の 基原種であるトウ キ <i>Angelica</i> <i>acutifolia</i> (Sieb. et Zucc.) Kitagawaとは同 属植物であるが 別種、分類学的 にはトウキよりカワ センゴ	*					D	様々な薬理作用が報告されている一方、安全性に関する情報が不足している。
207	ヒヨス属	種子・葉		<i>Hyoisycamus niger</i> L.	Solanaceae ナス科	Apoptropine/Hyoscyamine/Hyo scyamine (Tropane alkaloid) 総アルカロイド:0.07% (栗田 天然薬物事典)	Com E			(+)-hyocyanine i.v. mouse LD50 81 mg/kg; atropine reproductive effect: oral rat TDLo 437.5mg/kg; iv woman 26-39W preg TDLo 0.02mg/kg 毒性 oral human TDLo 0.033mg/kg scopolamineソフト錠口 LD50:2650mg/kg、マウス経 口 LD50:1275mg/kg、マウス 腹腔 LD50:400mg/kg、マウス 皮下 LD50:1700mg/kg、マウ ス静注 LD50:100mg/kg	A	A	劇薬相当のアルカロイドを含む。
208	フクジュソク	全草		<i>Adonis amrensis</i> Regel et Radde	Ranunculaceae キンポウゲ科	フクジュソク	Com E			<i>A. vernalis</i> leaf extract i.v. Guinea pig LD50 6.201mg/kg, oral cat LDLo 32.5 mg/kg <i>A. aurantiac</i> infusion human oral, TDLo 4.95 mL/kg cat LD100 k-strophantoin 0.1606mg/kg	A	A	劇薬相当の強心配糖体を含む。
209	フクジュソク <茯神木>	葉根に含まれる 根					*			不詳		D	成分情報がない。
210	フクジュソク<種盆子>	未成熟種子		<i>Rubus chingii</i> Hu	Rosaceae バラ科	種盆子と漢薬 に記載、ウチ タ根漢薬で 販売している				同属のみあり	Class 2d	A	BShに禁忌があり安全性に配慮が必要である。

218	ポウコン<茅根>	ハクポウコン、 ビヤクポウコン	根茎	根茎は茅根 (ポウコン)と 呼称される。	<i>Imperata cylindrica</i> Beauvois	Gramineae イネ科	チガヤ	局方			なし。(参考) Extract excluding root: LD50 1g/kg (mouse ip)	Class I	A	局方収載生薬で、変角菌が寄生する可能性があり、安全性に十分な配慮が必要であることから専ら医薬品と考えられる。
219	ホウセンカ		種子	種子以外は「非医」、種子は急性種子(キョウセイ)と呼称される。	<i>Impatiens balsamina</i> L.	Balaninaceae ツクシネン科	ホウセンカ	中国新薬収載			Extract: LD50 750mg/kg (mouse ip)		C	中薬大辞典に子宮収縮作用に関する記載があるが、CAにおいて学術論文としての報告がないため、さらに調査を継続する必要があると考えられる。
220	ホウセンカ<黒尾草>		全草	根を含む全草は黒尾草(ホウビンク)と呼称される。	<i>Pteris multifida</i> Poir.	Pteridaceae イノモトノク科	イノモトノク	* 民間薬として は使用			Extract: LD50 >1g/kg (rat ip)		C	発がん性のある成分(ptaquiloside)の分解産物と考えられる成分(pterins類)を含み、かつptaquilosideを含む可能性が否定できないため、引き続き調査を行う必要があると考えられる。
221	ポウフク<防風>		根および根茎	根および根茎は防風(ポウフク)と呼称される。	<i>Saposhnikovia divaricata</i> Schischkin	Umbelliferae セリ科	ポウフク	局方			Root: LD50 2.14mg/kg (mouse oral); carotaxin LD50 100mg/kg (mouse parenteral)		A	劇薬相当の成分(carotaxin)を含有しており、専ら医薬品と考えられる。
222	ホオク<黄芩>		花粉	花粉以外は「非医」、ガマ、ヒメガマ以外の花粉は「非医」。花粉を滑黄(ホオク)と呼称する。	① <i>Typha latifolia</i> L. ② <i>Typha angustata</i> Bory et Chaub.	Typhaceae ガマ科	①ガマ ②ヒメガマ	OTCとしての 使用実態は ある			② Extract: 250mg/kg (rat ip)		C	医薬品の成分としては使用されているが、直接的な毒性データが乏しいため、さらに調査を継続する必要があると考えられる。
223	ポタンビ<牡丹皮>		根皮	葉、花は「非医」、根皮は牡丹皮(ポタンビ)と呼称される。	<i>Paeonia suffruticosa</i> Andrews	Paeoniaceae ポタン科	ポタン	局方			Extract: micronucleus test 750mg/kg (mouse ip), cytogenetic analysis 3g/kg (mouse ip), paenol LD50 490mg/kg (mouse oral), paeniform LD50 3530mg/kg (mouse ip)	Class 2b	A	局方収載生薬で多数の漢方処方に配合されている重鎮生薬であり、またBSHに本品も記載されており、安全性に十分な配慮が必要であることから専ら医薬品と考えられる。
224	ポトフィルム	ヒマラヤハンガク レン (<i>Podophyllum emodi</i> Wall.)、 mayapple root	根・根茎		<i>Podophyllum peltatum</i> L.	Berberidaceae メギ科	ポトフィルム、ペ ルタウム	Com E			podophyllotoxin: LD50 100mg/kg (mouse po)	Class 2b	A	劇薬相当の成分(podophyllotoxin)を含有しており、専ら医薬品と考えられる。
225	マオウ<麻黄>	草麻黄、中麻 黄、木賊麻黄	地上茎	地上茎を麻黄(マオウ)と 呼称する。	<i>Ephedra sinica</i> Stapf, <i>E. intermedia</i> Schrenk et C. A. Meyer, <i>E. equisetina</i> Bunge	Ephedraceae マオウ科	マオウ	局方 Com E			Exret (herbs): LD50 3500mg/kg (rat oral), ephedrine: LD50 600mg/kg (rat po), pseudoephedrine: LD50 660mg/kg (rat po)	Class 2b, 2c, 2d	A	舊せい剤原料であるアルカロイド(ephedrine)が含有されており、専ら医薬品と考えられる。

評価基準

- A: 安全性に十分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。
 B: 国内外を含む医薬品としての使用実態があり、専ら医薬品と考えられる。
 C: さらに調査を続ける必要がある。
 D: 現在のところ判断データがない。
 E: 医薬品としての使用実態が乏しく、含有成分等からも食薬区分の見直し対象となり得ると思われる。